

第 88 号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 <E-mail>
 matsuoaka@kosanji.or.jp

人のいのち

さるべき業縁ごうえんのもよおせば、
 いかなるふるまいもすべし

親鸞聖人は我々の今を言い当てている。どんな人間であろうと、環境さえ整えば実際に人殺しだってやる身なんだと。

かけがえのない命。その言葉は当たり前のように使われているが、自分が、同情する人の命は、かけがえのない命。しかし、同情の余地がない人には「あんな人は死んだ方がいい」「まあ、あの人は死んでよかったわ」

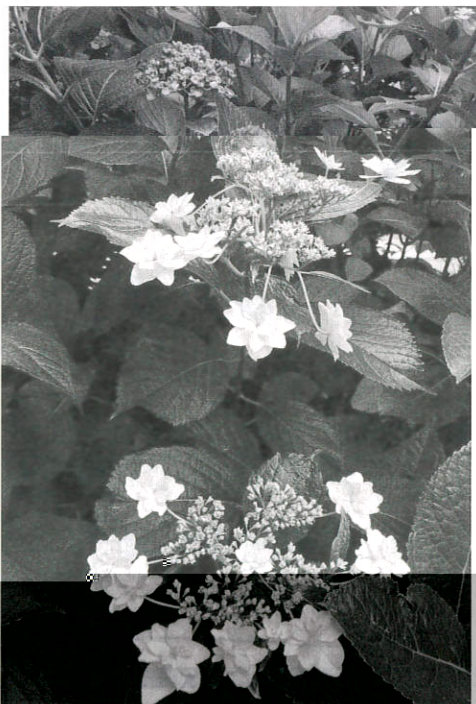
と、頭の中で人を殺す。

はたまた自分を脅かす敵ができれば、敵なんて殺さなければならぬと。環境さえ整えば何をしでかすかわからない我々、凡夫の根にはそんな残酷な質も潜伏している。

そんな我々に親鸞聖人は

「御念仏こころにいれて申して、世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」

と願いをかけている。すべての人の命が輝いて、すべての命がかけがえのないものだと思える社会を。



納涼大会の思い出

伊藤和美

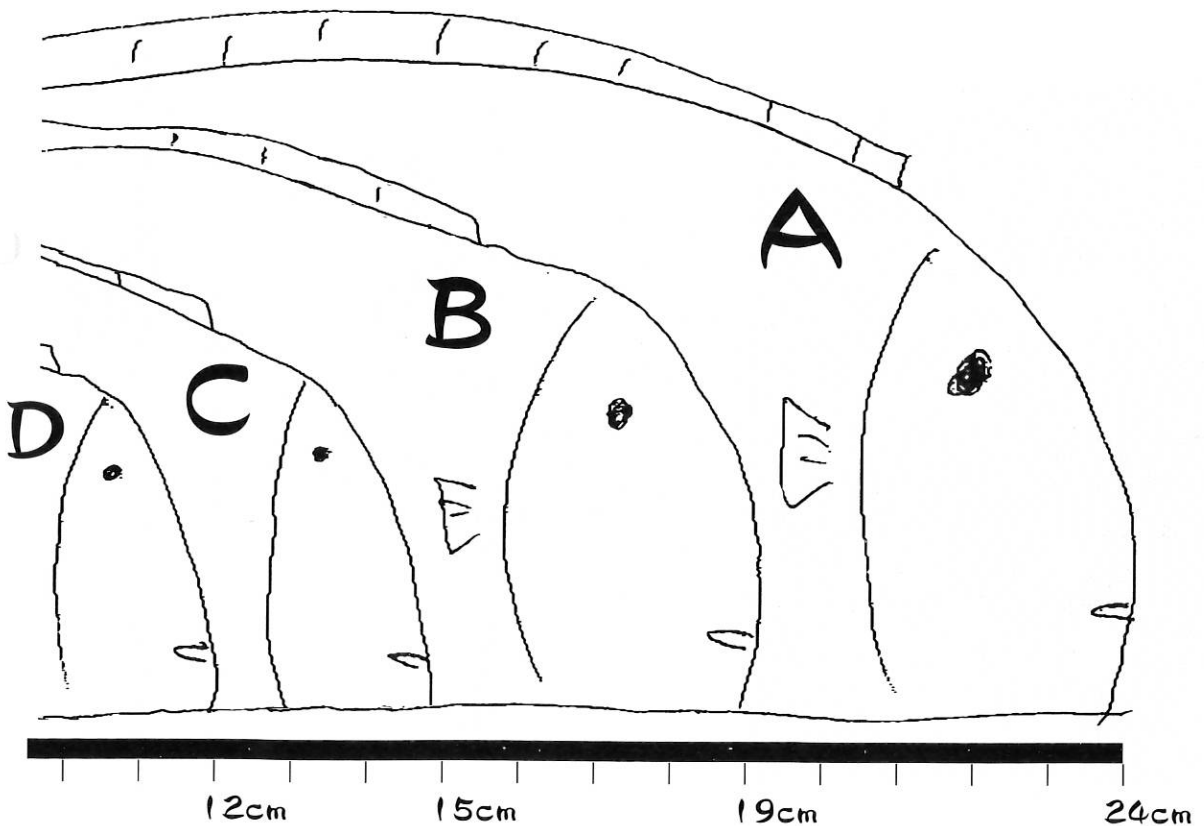
廣讚寺同朋会は昭和52年に結成されて以来、納涼大会を開催しております。

子供を喜ばせようと、胆だめし、花火、詰将棋、金魚すくい、トランプ、サイコロ、じゃんけんゲームなどを催しておりました。つれてくる大人のために落語や津軽三味線が行われました。しかし本堂内の催し物は見学する人も少なく3年で中止しました。

その後、胆だめしと花火は危険だということで中止になり、詰将棋は参加する子供がいなくなりやめました。

それから現在のような納涼大会になりました。トウモロコシ、みたらし、おでん、ジュースの販売、輪投げにビンゴゲーム。そして金魚すくい。

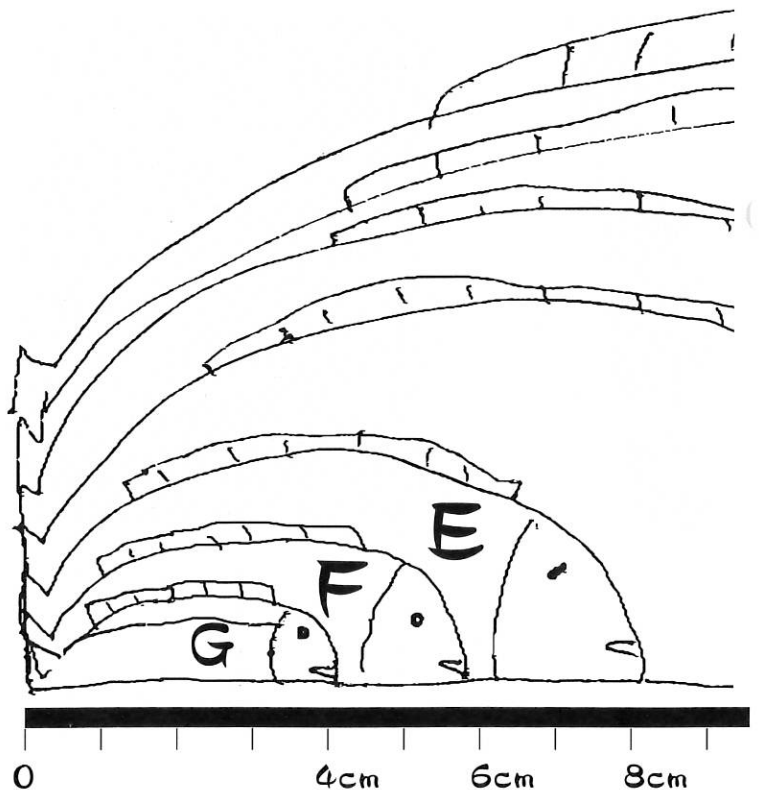
納涼大会の目玉である金魚すくいは昨年で38年続い



ていたんですが、余った金魚の世話をする後継者がいなくなり今年でやめることになりました。金魚の世話をしていたのは私だったのですが私も年をとり限界を感じたのであります。納涼大会が終わると、その日のうちに余ったすべての金魚を自宅に持って帰ります。持って帰ってきたら今度は金魚を1匹1匹、網ですくって水槽に移します。納涼大会では紙で金魚すくいをするので、その紙の破片が水の中に充満していて、その紙を金魚が食べると死んでしまうため1匹1匹網ですくって水槽に移すのです。それをやり終えると夜中になっています。

しかし今まで世話をしてきた金魚を見るとその苦労のいかいもあります。水槽は年ごとに分けております。最初の頃の金魚はたいへん大きくなりました。ここに記録として発表いたします。

- A.昭和60年
- B.平成2年
- C.平成7年
- D.平成12年
- E.平成17年
- F.平成22年
- G.平成26年



行事予定

七月十一日(土)七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(日)五時半 納涼大会

(雨天決行)

納涼大会

人形劇・輪なげ・ビンゴ大会など…
楽しい催しものがいっぱい。
どなたでもご参加ください。

二十日(祝)九時 後片付け

二十八日(火)十時 二十八日講・女人講

八月八日(土)七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(水)二時～四時 学習会

二十八日(金)十時 二十八日講・女人講

二十組行事予定

八月五日(水) 一時半 子供と一緒にご命日のつどい

人形劇その他 西光寺にて

九月七日(月)～八日(火) 一泊二日研修旅行

参加費・・・二万五千元
締め切り・・・八月九日



古川三寺と

富山別院、

城端別院、

井波別院

参拝旅行。

金太郎温泉

で宿泊。